

「主の恵みの管理者として」
(ペテロの手紙第一 4章9－10節)

はじめに

今朝は、「収穫感謝礼拝」です。今年一年の主の恵みと祝福に感謝しましょう。

さて、使徒パウロは、「私たちを神のしもべ、また神の奥義の管理者だと考えなさい」と言っています（1コリント4:1）。神に仕える者、神から真理を委ねられた者という意味でしょう。

聖書は、私たち人間はみな、神の管理者であると教えています。「管理者とは、所有者に代わって、土地、建物、その他、所有者の財産を管理する者」です。ローマ社会においては、金持ちたちは、自分の財産や子どもたちの教育を管理者に任せました。オイコノモスと称されるこの人たちは、「ステュワード」「家令」「番頭」と言われる人に当たるでしょう。

管理者に選ばれることは、名誉であると同時に、大きな責任を持つことでもありました。「良い管理者」とは、「所有者の意志に従い、所有者の最高の利益のために、忠実に務める人です」。

そこで、今朝は、私たちが神の管理人であることを学びましょう。

1. 人間は、神の管理者である。**(1) すべてのものは、神のものである。（詩篇24:1）**

「地とそこにみちているもの、世界とその中に住んでいるもの、それは主のものである」

聖書によれば、神は世界の創造者です。創造者であればすべてのものの所有者です。

例話：紀元79年にイタリアのヴェスヴィアス火山が噴火し、近くのポンペイ市が埋まってしまいました。1748年4月19日にフランスの探検隊が最初の人骨を発見しました。彼は、その手に宝石をたくさん握りしめていました。噴火の時、自分の一番大切だった宝石を握りしめて逃げ出したのでしょう。しかし、2000年後のいま、それは彼のものではありません。私は、東京の神田に生まれ、世田谷の奥沢で育ち、結婚して千葉県市原市に住み、千葉市に移り、川崎市に引っ越し、横浜市に移り、そこでも引っ越ししました。さらに、香川県丸亀市に行き、そこでも一度引っ越しをしました。現在住んでいるのは、生まれてから数えると10軒目です。これまでの9軒には、いまは他の人が住んでいます。家でさえ自分のものと言えるのは、ほんの一時です。

(2) 神は、ご自分のものを人に委ねられました(創世記2:15)

神は、人をご自身のかたちにお造りになり、人に被造物の管理をお委ねになりました。

創世記を読みますと、三つのものが委ねられていることが分かります。

① 「もの」の管理(仕事)

これは、この世のものすべての管理です。このことから、人間は「仕事をする」ことが初めから使命として与えられていることが分かります。私たちは、自分に委ねられた仕事に責任があります。お金も委ねられていますので、これをどう遣うかは、私たちの責任です。私たちが神に献金するのは、お金が神のものであることを告白しているのです。すべてのものの十分の一は神のものとしてささげることにより、私たちは神の管理者であると表明していることになります。

② 「人間の管理」(愛)

次は、人間の管理です。これは、人を愛するということです。人は、ただ仕事をするだけではありません。人を愛し、結婚をし、家庭を作ることを委ねられています。

神様はあなたに、夫や妻や子どもを、そして友人や知人をゆだねておいでになります。その人たちを心から愛して神の栄光を現しましょう。

③ 「時」の管理」(礼拝)

人間は、仕事をし、結婚をし、家庭を築くだけではありません。神との関わりを持つのです。神に造られた人間は、神との関わりなしには生きていけないのです。そのためには、時間の管理が必要です。神との交わりの「時」が必要なのです。神は、6日間働いてすべてのことをし、7日目は休むように言われました。それは、神との交わりのためです。安息日を守るのは、時間の管理の象徴です。

④ 「福音の管理」(伝道・教会に仕える)

人間は神に背き、罪を犯しました。ですから、救いが必要です。仕事にも、人間関係にも、神礼拝にも罪が及んでいます。人は、仕

事の奴隷となり、家庭は崩壊し、人は真の神を知らずに偶像を拝んでいます。今、私たちは福音を委ねられています。これを伝えなければなりません。教会に仕えることにより、人々に福音を示していかなければならないのです。

⑤ 「賜物」の管理

私たちには、様々な賜物が与えられています。才能といってもいいでしょう。それを用いることが大切です。

例話：賀川豊彦のことば：たとえ私に与えられたタラントが一タラントであったとしても、私はそれを使い果たしたい。

2. 管理者に求められるのは、忠実であること（マタイ 25:14-31）

（1）私たちが神の管理者として生きるとき、私たちに委ねられている賜物や働きは違います。

（2）主が求めておられるのは、小さなことにも忠実であること。

3. 管理者の目標は、自分の利益ではなく、神の利益（栄光）。

私たちが神の管理者であるとすれば、仕事をするのも、家庭を築くのも、クリスチャンとして神を礼拝し、神に仕えるのも、自分の利益を第一として考えません。それによって神の栄光を現すことを求めます。自分の生き方が、神にとってどれほどの益をなっているのか。それが最大の関心です。

例話：皆さんは、「人民の、人民による、人民のための政治」ということばを聞いたことがあるでしょう。これはアメリカの第16代大統領アブラハム・リンカーンの言ったことばです。この歴史的な演説は、1868年11月19日にゲチスバーグ国立公園に集まった15000人の前で行われました。エドワード・エヴェレットがリンカーンの前に2時間演説しました。リンカーンの演説は、わずか3分間でしたが、エヴェレットの名は忘れられても、このリンカーンのことばは、世界中の人々が記憶するところとなりました。

どう生きるか。それが大切です。演説の長さが問題ではありません。内容です。人生も同じです。長く生きることが問題ではありません。生きる内容が大切ではないでしょうか。神様の栄光のために、神を喜ん

で生きることを、私たちは求められているのです。

4. ここから学ぶこと

- (1) あなたは、神の管理者である。
- (2) 神はあなたに、物と人と時間と福音をゆだねておられます。
- (3) 神は、神の栄光のためにあなたがそれを用いることを求めておられます。
- (4) 神は、あなたに忠実であることが求められおられます。

招きのことば

イエス様は、私たちの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(Iヨハ4:10)

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」(黙示録3:20)

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒の働き16:31)

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。